

函館市の亀田病院に勤務する脳神経内科医で、新型コロナウイルス後遺症外来を担当する。体のだるさや微熱、記憶障害や睡眠障害など、訴える症状はさまざまだが「後遺症が出る仕組みには（体の機能を自動的に調整する）自律神経が関係している可能性がある。脳神経内科の立場で困っている人に寄り添いたい」。

函館出身。幼い頃、祖母が病気がちだったことから医師を志すようになった。函館ラ・サール高から旭川医大に進学。講義を聴くうちに脳神経内科への興味を深めた。扱うのは脳や脊髄、神経、筋肉の病気。症状はしびれや頭痛、物忘れなど多岐にわたり、筋萎縮性側索硬化症（ALS）や筋ジストロフィーなど難病も多い。「丁寧に症状を聞いて、原因を探る診断プロセスにもひかれた」と脳神経内科の道を選んだ理由を振り返る。

卒業後は旭川医大病院の勤務医となり、コロナ後遺症の一つで思考力が低下する「ブレインフォグ（脳の霧）」と呼ばれる症状に悩む患者に出会った。コ

新型コロナウイルス後遺症を診る脳神経内科医

ひと

2024

さいとうつかさ
齋藤 司 さん



ロナ後遺症は原因がはっきりせず、どこの診療科に相談するか迷う人も多い。

昨年4月、故郷にある亀田病院に転じたのを機に、新たな治療法の確立につながる可能性もあると、コロナ後遺症の専門外来開設を申し出た。脳神経内科が担当する例はまだ少ない。同6月から毎週木曜に予約制で受け付けを始め、これまでに12、83歳の17人を診た。「症状が改善する例が多く、良くなる見込みは高いと感じている。不安があればぜひ受診してほしい」と語る。45歳。（鹿内朝代）